

科目コード	R24217	科目名	物理療法学				
履修区分	必修	開講期	1年後期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	石倉 英樹						
授業の概要	物理療法について学び、臨床場面で物理療法を使用するために必要な知識を理解する。						
DPとの関連	平和を希求する心と豊かな人間性を身につける						-
	修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける						
	高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける						
	地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける						
	2025年度以降の学則適用者用のディプロマ・ポリシーとの関連を記載しています。2024年度以前の学則適用者は、項目順や表現が異なります DP：ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）＝卒業までに身に付けるべき資質・能力						
到達目標	物理療法の位置づけと意義を理解する。 各物理療法の生理学的作用を理解する。 各物理療法の適応・禁忌を理解する。						
履修上の注意事項	物理療法学演習との関連して講義が進行する。						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】			事前・事後学修		
	1	オリエンテーション、物理療法学概論 ・理学療法における物理療法の位置づけ【石倉】			理学療法プロセスをイメージし、その中で物理療法の位置づけを具体的にしておく。(60分)		
	2	温熱療法 ・温熱エネルギーの概要【石倉】			日常生活における温熱エネルギーの具体的な例をイメージしておく。(60分)		
	3	温熱療法 ・ホットパック、パラフィンの各論【石倉】			ホットパック、パラフィンが臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	4	寒冷療法 ・寒冷療法の概要【石倉】			日常生活における寒冷エネルギーの具体的な例をイメージしておく。(60分)		
	5	寒冷療法 ・コールドパック、アイスバッグ、コールドスプレー、クリッカーの各論【石倉】			コールドパック、アイスバッグ、コールドスプレー、クリッカーが臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	6	電磁エネルギーを用いた物理療法 ・電磁エネルギーの概要、エネルギー変換熱（マイクロ波、超短波）の各論【石倉】			日常生活における電磁エネルギーの具体的な例をイメージしておく。マイクロ波・超短波が臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	7	電磁エネルギーを用いた物理療法 ・光線療法（赤外線、レーザー、紫外線）の各論【石倉】			赤外線、レーザー、紫外線療法が臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	8	電磁エネルギーを用いた物理療法 ・電気刺激療法（TENS、NMES）の各論【石倉】			電気刺激療法が臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	9	力学的エネルギーを用いた物理療法 ・力学的エネルギーの概要【石倉】			日常生活における力学的エネルギーの具体的な例をイメージしておく。(60分)		
	10	力学的エネルギーを用いた物理療法 ・超音波、振動刺激、圧迫、牽引の各論【石倉】			超音波、振動刺激、圧迫、牽引療法が臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	11	水治療法 ・水治療法の概要、温浴、冷浴、水中運動療法などの各論【石倉】			水治療法の具体的な例をイメージしておく。水治療法が臨床場面でどのように用いられるか考える。(60分)		
	12	温熱療法 ・寒冷療法の臨床・温熱療法、寒冷療法の生理学的効果【石倉】			温熱・寒冷療法が生体に及ぼす影響をまとめ、考える。(60分)		
	13	電磁エネルギーを用いた物理療法の臨床 ・電磁エネルギーを用いた物理療法の生理学的効果【石倉】			電磁エネルギーが生体に及ぼす影響をまとめ、考える。(60分)		
	14	力学的エネルギーを用いた物理療法、水治療法の臨床 ・力学的エネルギーを用いた物理療法、水治療法の生理学的効果【石倉】			力学的エネルギー、水治療法が生体に及ぼす影響をまとめ、考える。(60分)		
	15	総括 ・各物理療法のまとめ【石倉】			今までの講義をまとめ、復習しておく。(60分)		
成績評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
	物理療法学テキスト 改訂第3版（南江堂）					978-4-524-25179-7	
参考書	Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学（メジカルビュー社）					978-4758320061	
	エビデンスから身につける物理療法（羊土社）					978-4758102216	
教員からのメッセージ	物理療法による生理学的効果を理解するために、生理学や解剖学の知識が重要となる。生理学・解剖学で学ぶ知識と併せて理解するようにすると良い。						
教員との連絡方法	オフィスアワーを活用すること						
実務経験のある教員	病院や施設での理学療法士としての臨床経験を基に、物理療法について講義を行う。						